



koedo-kawagoe
OMOTENASHI

小江戸川越
おもてなし

祝
川越市市制施行百周年

鼎談
「埼玉県、そして川越市。
観光の未来を語る」

Japan tourism
-次世代の観光スタンダードを知る-



とき 薫るまち 川越

小江戸川越観光協会

2023.WINTER

小江戸川越 観光を担う組織について

観光都市としての川越では、主に4つの組織団体が、民間と協力しながら観光に関する様々な事業、イベントや行事の運営を行っています。それぞれの役割を知り、観光に関する情報を正確に収集して、観光事業に役立てましょう。

川越市 産業観光部 観光課

主な業務として、第二次川越市観光振興計画の策定・進捗管理、観光施設（観光案内所、旧山崎家別邸、川越まつり会館）の運営、市庁舎北側・南側駐車場（土・日・祝のみ）の運営、観光サインの維持管理、観光関連団体（公益社団法人小江戸川越観光協会、一般社団法人DMO川越）の支援、川越まつり関連団体（川越まつり協賛会、川越市離子連合会、川越市山車保有町内協議会）の事務局運営、川越市マスコットキャラクターとぎもに関する事務等を担っています。



川越市元町1-3-1
TEL 049-224-5940
FAX 049-224-8712
kanko@city.kawagoe.lg.jp

公益社団法人 小江戸川越観光協会

昭和34年に設立し、その後現在の公益社団法人には平成16年に移行しています。主な業務としては、観光マップ（国内版と7か国の外国版）の製作と配布を行うとともに、小江戸川越web（観光協会のHP）による観光情報の提供、SNSの発信業務を行っています。また主な事業については、小江戸川越春まつりやリミックス（食と音と灯りの融合）、市内開催の観光イベントの共催・後援など年間を通じて観光事業に携わるほか他市の観光協会や近隣市町村とキャンペーンも実施しています。



川越市松江町2-1-8
TEL 049-227-9496
FAX 049-227-9497
http://www.koedo.or.jp

一般社団法人 DMO川越

平成30年11月に設立、令和4年3月28日に登録観光地域づくり法人（登録DMO）に登録されました。川越が有する豊かな歴史、文化、自然を活かし、川越ならではの「稼ぐ力」を引出し、観光地域づくりを実現するための戦略を策定します。主な事業内容として、観光戦略に基づいた情報発信や、プロモーション業務、観光戦略に基づく地域資源の磨き上げと、観光価値の創造などの施策実施、観光客受入れ環境の整備、観光マーケティング調査。と分析ステークホルダーとの調整および合意形成があります。



川越市松江町2-9-2 2F
TEL 049-299-7401
FAX 049-299-7402
https://dmokawagoe.jp

株式会社まちづくり川越

川越市の更なる活性化を実現するためのまちづくり会社。川越市や川越商工会議所、小江戸川越観光協会をはじめとした各種団体などと連携し、まちづくりを推進。主な事業は川越市産業観光館「小江戸蔵里」の指定管理（地域で育まれた食や特産物の提供、埼玉県の地酒の醸造・販売、市民文化活動の場の提供、イベントの企画運営など）。観光案内所受託業務（JNTO認定カテゴリー2外国人対応観光案内所）。また、中心市街地活性化事業（チャレンジショップによる創業支援や空店舗対策など）も行っています。



川越市新富町1-18-6
戸田本川越ビル403
株式会社まちづくり川越
TEL 049-236-3680
FAX 049-236-3690

令和四年 川越市市制施行100周年



大正11年12月1日に川越市に市制が施行されてから100年。令和4年は記念事業で市内が大いに盛り上がりました。小江戸川越観光協会も、次の100年に向けて躍進してまいります。



「祝市制」と掲げられた旧市役所。奥には山車の姿も



大正11年

市制施行当時の川越の様子です。各町内の山車が出てまち全体がお祝いムードに。旧市役所は夜間のライトアップも行われていました。

市制施行のお祝いで市内には各町内の山車が曳き回されました。写真は高澤の山車（写真提供 川越市）



お祝いの人で賑わう鍛冶町通りの様子

令和4年

市制施行100周年を迎えた川越市では、年間を通して多くの記念事業が行われました。中でも3年ぶりに開催された川越まつりは、人々に大きな感動を与えました。



7月に行われた百万灯夏まつり。久しぶりの歩行者天国で、浴衣で楽しむ人々が多く見られました



市内各所に100周年を祝う看板やのぼりが飾られ、多くの企業が記念商品の販売なども行いました



3年ぶりに行われた川越まつり。待ちに待った行事に市内は多くの人で賑わいました



12月1日にウェスタ川越で行われた記念式典。多くの来賓が訪れ、広場では山車も飾られました

Contents

koedo-kawagoe
OMOTENASHI
2023.WINTER

- 02 川越市市制施行100周年(令和4年)
- 03 観光を担う組織について
- 04 鼎談「埼玉県、そして川越市。観光の未来を語る」
松本邦義 × 松山潤 × 朝霧重治
- 12 Japan tourism ー次世代の観光スタンダードを知るー
case.1 富山県南砺市 Bed & Craft 山川友嗣
- 16 川越を知る file.3 喜多院
- 19 新入会員紹介
- 20 Information



朝霧重治
 埼玉県物産観光協会副会長
 (株)協同商事 代表取締役社長

松山潤
 小江戸川越観光協会会長
 料亭山屋 代表取締役

松本邦義
 埼玉県物産観光協会会長
 松本米穀精麦(株) 代表取締役社長

鼎談 **埼玉県、そして川越市。観光の未来を語る**

新型コロナウイルスの蔓延により、世界中の生活が一変して約3年。ことに観光事業従事者は、厳しい移動制限や様々な規制に苦難を強いられてきました。川越で、そして埼玉で、その前線で対策に従事する松本邦義氏（埼玉県物産観光協会会長）、朝霧重治氏（埼玉県物産観光協会副会長）のご両名を招き、弊会会長の松山潤が企業の取り組みや団体の対策、そしてこれからの観光の未来について伺いました。

コロナ禍から現在における企業への影響と対策

松山潤氏（以下、松山） 新型コロナウイルス感染症が拡大して3年が経ちますが、埼玉県物産観光協会の会長を務める松本さんと、同じく協会の副会長を務める朝霧さんが感じる、コロナ禍において企業が受けた影響についてお話を伺いたいと思います。

松本邦義氏（以下、松本） 川越だけではなく、すべての地域で共通して言えることではありますが、観光業や飲食業を生業とする企業にとって、新型コロナウイルス感染症の拡大は店舗経営に多大な影響を与え、多くの企業が経営不振に陥りました。その影響がどの程度のものだったのかは、みなさんがそれぞれ感じていらっしゃると思います。コロナ禍は世の中に非常に大きな爪痕を残し、2019年以前とは全く違う様相となりました。

松山 直接的、あるいは間接的な影響は、具体的にどのようなものですか。

松本 私は穀物と畜産関係の仕事に携わっているのですが、コロナ禍において間接的に、あるいは直接的に関係があったことと言えば、やはり飲食店を営むお客様が非常に大きな打撃を被ったということ、その陰で物流が滞ってしまったことが挙げられます。そして、昨今ではロシアとウクライナによる戦争が始まったこともあり、原材料が非常に高騰している事に併せて、間接コストがかなり上がっているという状況でもあります。やっと全国的にも、「コロナを脱して……」というような局面に到達しつつある現在ですから、このまま他の諸外国がそうであるように、足並みを揃えて新しい日常に進んで行きたいと願っているところです。

朝霧重治氏（以下、朝霧） 私の会社の事業はアルコール業界です。でも最も槍玉に上がりましたね。飲食、アルコールというところは営業制限がダイレクトにかかってしまったので、普段通りの営業活動が全くできない状況でした。しかし、企業活動をしなくて従業員共々倒れてしまうので、コロナ禍であっても一般家庭

で飲んでいただけのようなチャンネルの構築に取り組んでおりました。その中で、今度はロシアとウクライナの問題も出てきてしまったので、原料の高騰など様々な面で影響が出てきました。価格転嫁については、製造側と卸売り側という面では納得していただいています。一般の方が購入されることを考えた時に、実際は所得が上がるというわけではないので、やはり販売量の減少に繋がってきます。なかなか一筋縄ではいかないというところで、とても頭を悩ませているというのが現状ですね。

松山 コエドブルワリーでは新商品を開発されたり、ビールの出荷ペーシングも上がっているように感じますが、どのような試みをされてきたのかお話しいただけますか。

朝霧 さまざまな制約がある中でもできることをやってみようと考え、定番商品の販売だけでなく、地域原料を使い、産地のPRも行いながら商品として販売することに取り組んできました。そのほか、川越出身の大木伸夫さんがボーカル&ギターを

担当するロックバンド「ACIDMAN」が企画された音楽フェス「SAI2022」（2022年1月26日〜27日）開催に合わせて、ビールの共同開発にも参加させていただきました。コロナ禍においても、さまざまな角度からいろいろなことに挑戦させていただいているのが実態です。

観光分野での取り組み

松山 お二人は埼玉県物産観光協会でも精力的に活動されていますが、ここ最近協会でどのような取組を行っていますか。

朝霧 松本会長がおっしゃった通り、観光業や飲食業は大きな打撃を受けました。この間の物産観光協会の活動といたしまして、物産関係については県内のメーカーへの支援として、物産観光協会のオンラインストアで送料の無料化、割引販売を実施しました。そのほか、新型コロナ対応で大変なご苦労をされた医療従事者への支援として、物品の手配を請け負う活動も行いました。一方、観光面と致しましては、私自身が観光地域

埼玉県、そして川越市。観光の未来を語る



松山 潤 Matsuyama Jun
昭和39年(1964年)生、川越市出身。立教大学法学部卒。「有限会社山屋」代表取締役社長。(公社)小江戸川越観光協会会長、川越青年会議所OB会会長、川越料理店組合副会長などを歴任。

づくり法人(DMO)の部会長を拝命をし、県内の市町村や観光関連事業者の皆様と、宿泊施設が「安心安全に運営されている」という事を第三者が認定を行う「サクラクオリティ制度」の導入についての検討や、スポーツと関連した取組、次世代の子どもたちへの地域愛を育む事業の企画に参加させていただきました。県全体の活動をサポートすることは、予算や時間の関係もあり難しい面もありましたが、限りある中で私たちにできることを一つ一つこなすこと

ができたのではないかと思います。
松山 「サクラクオリティ」について詳細を伺えますか。
松本 「サクラクオリティ」というのは宿泊施設の品質認証制度で、それぞれの施設が桜のマークの数で評価されます。埼玉県では物産観光協会の職員が施設を訪問し、約300項目からなる調査を行います。評価対象として名乗りを上げるということはとても勇気がいることだと思いますが、「コロナ禍だから何かやらないといけない」という気持ちが後

名には「越」が含まれているのだから」と話しました。私はその言葉に感銘を受け、「越えていこう川越プロジェクト」を立ち上げ、動画やポスターを制作してコロナ禍に悩む皆さんを元氣付けるための活動を行なってきました。

が、それが気軽にできなくなってきたからこそ、また飲食店を訪れた時の時間をすごく愛おしく思うことも実感できました。今年の5月ぐらいからは外食産業に向けても人々の流れが戻ってきたタイミングだったと思いますが、本当に皆さん心待ちにされていた様子が見られて、今まで身近で当たり前のようだったという風景がすごく大事なことだということに氣付かされましたね。
松本 私も同じように思います。会議が終わった後、以前は当たり前の

ように友好を深めるための懇親会を行なっていましたが、それが全くなりなくなりました。今年に入ってから少しずつ再開できるようになってきて、そこで「3年振りだよ」というような会話があちこちで聞かれました。やはり実際、顔を合わせないと感じ取れないことがあり、それを皆さんが実感されていたと思います。「お酒を飲みながら食事をする」ということの大切さを感じました。それに氣付かされたことは非常に大きなことだったと思います。

押ししている部分もあるのかもしれませんが。手を上げてくださる施設が一軒一軒増えてきていますね。
「越えていこう、川越」に込めた思い
松山 川越はコロナ禍になる以前の2019年には、年間の観光客が約740万人ありまして、その中で外国人観光客が31万人近くいらっしゃったんですけど、コロナ禍になってからは半減し、入国規制の影響もあって外国人観光客の数は1万人まで減少しました。たくさん観光客で賑わっていた一番街には人が誰もいない、そんな状況が続き、多くの店舗が店を閉めたり休業する事態に陥りました。当然、イベントや行事も中止になりました。特に「川越まつり」が3年の間開催されなかったことはまさに大きな影響を与えました。川越に限らず、伝統芸能、伝統行事というものは毎年開催されることで存続していくので、今年ようやく開催しましたけれど、まちの皆さんはとても苦勞されたと思います。

小江戸川越観光協会では、緊急事



「越えていこう、川越」の動画制作も行った

態宣言が明けて間もない5月末に理事会が開かれました。その時に皆さんの現況を聞いた上で、一番最後に当会副会長の川越氷川神社・山田禎久宮司が、「川越は今まで災難苦難にあつてきた。震災もあれば戦争もあり川越大火もあった。しかしそれを乗り越えてきたのだから、今回も絶対乗り越えられる。川越という地



松山 今までは川越という観光客で混んでいるので、市内に住む人は訪れることを避けて都内へ出かけることが一般的だったと思うのですが、マイクローリズムが注目されると、この機会に空いている川越を観光しようという人も増え、私の経営する料亭でも川越市在住で初めていらっしゃるというお客さんも増えました。そういう意味では身近なことを発見する機会になったのかなと思います。一方でリモートワークが増えた中で、今までと違って「これは省いても良いのではないか？」というものが見

だ、と氣付かされました。
朝霧 行動制限がかけられたことはおそらく現代において初めてだったと思います。そういった環境に置かれたからこそ、身近な場所に目を向けるといった点でマイクローリズムが注目され、改めて身近な方達に自身が暮らす地域の魅力を知ってもらうという、良い機会が生まれたと思います。それから、従来では特に飲食をする機会が楽しい時間でした



松本邦義 Matsumoto Kuniyoshi
昭和40年(1965年)生、熊谷市出身。慶應義塾大学法学部卒。松本米穀精麦株式会社代表取締役社長、一般社団法人埼玉県物産観光協会会長、株式会社ティアラ21代表取締役、熊谷市国際交流協会会長。

見

埼玉県、そして川越市。
観光の未来を語る



朝霧重治 Asagiri Shigeharu

昭和48年(1973年)生、川越市出身。埼玉県立川越高等学校・一橋大学商学部卒。「株式会社協同商事 コエドブルフリー」代表取締役社長。埼玉県物産観光協会副会長。

えてきたような気もしました。現地まで行っても数時間しか滞在しないので、あえてリモートを通じてやりとりをすることで現地へ行かずに済む、というメリットも考えられるようになってきました。

ただ、世の中には無駄に動いてこそ発見できる大事なことも結構ありまして、例えばネットで辞書を調べると当たり前のように回答を得られますが、あえて紙の辞典を開くと関係のないページで自分にとっての新しい発見があるような、アナログ的

な感覚も大事なんだと思います。その省力化と効率化との一方で、一見無駄と思われることの重要性、それを常に意識しながら効率的なことも進めていくべきだなと感じました。

次の時代に向けた新しい課題

松山 現在、第8波の訪れが懸念されていますが、観光客の出入りについてどのように感じますか。

松本 埼玉県でも以前に比べると随分戻ってきているということはよく聞きます。ツアーで大型バスを利用

埼玉県から見た川越の位置付けとは？

松本 やはり川越は埼玉県の中では抜きん出た観光地で、特色を非常に上手く外に伝えられている地域だと思っています。「小江戸」というキーワードがとてもキャッチーで良いと感じますし、地域独自の色をしっかりと持ち、それを放出している、そういう地域だと感じます。

以前に前埼玉県知事が「埼玉県の中で秩父と川越は観光目的地として非常に手堅いので、他の観光ルートを作っていくか」といらない」というようなお話をされたこともあったほどで、やはり観光ルートから川越という地域は外せないというふうに思います。そんな中で、埼玉県とすると「せっかく川越を訪れた人の流れがなぜ他の地域へ二次的に波及しないのか」という課題は相変わらず存在し、川越の地域においても「なぜみんな宿泊せずに日帰りで帰るのだろうか？」という課題があると思われれます。しかし私はそれに対して、ある程度仕掛けなければいけないこ

して観光される方も少しずつ増えてきたようで、「観光は控えなければいけない」という人の心理のハードルがだんだんと下がってきているのだからなと感じています。

松山さんがおっしゃったように、マイクロツーリズムによる需要はこの3年間でかなり掘り起こされ、改めて地元を見てみようという方が増えて、少しずつ波及してきているのではないかと感じます。政府のキャンペーンの後押しがありますが、それを利用せずとも、自分たちで情報を集めて県内の観光地を訪れる方や、近隣のまだ訪れたことのない面白いような場所を観光してきたという話は、以前よりも随分増えていると感じます。

朝霧 昨今ですと、物産観光協会がスペインのセビリアで開催した国際交流イベント「ジャパンウィーク」に参加して埼玉県をPRしましたよね。情報発信については来るべきインバウンド再開に備えておこうと考えています。

それからインバウンドという面では、やはり埼玉にとっても川越にとっても、その元々ある歴史と文化を深化させていくべきだと考えています。松本さんがおっしゃったように、それぞれの特色を活かしながら自然体で連携を組んでいけることが、埼玉県全体としての発展につながっていくのだと思います。朝霧さんは川越と埼玉県全体の両方の観光に関する視点をお持ちだと思うのですがいかがですか。

朝霧 埼玉県のみならず関東においても、川越は日帰りで訪れる代表的な観光地だと感じています。地元の皆さんと行政の方との連携により、交通機関を含めて築き上げてこられた実績もありますし、やはり埼玉県にとっては一つの人々の流れがあるというところは宝だなというふうにも思います。地元生まれ育ったものとしても誇らしく思うところでもありますね。しかし今も話題に出ているように日帰りで観光するということが増えたり、夕方になるとお客さんが帰られてしまうということは、コロナプスの卵のような議論にもなりますが、それを課題としてとらえ、より充実させていくということが地

っても従来からの課題や先々の課題を顕在化させ、そこに向けて打てる手は打っていかうという考えが大事なのではないかと思っています。私は事業として商品の輸出にも取り組んでいるので、日本の円安問題をはじめ様々なことが立ちあがってはいますが、やはりグローバルで活動していかないとはいけませんし、逆に閉じこもっては勿体ないということもあると思います。

目を外に向けていくことと身近な良さを感じ取るという点では、特に昨今ではキャンプが注目され、非常にメジャーなコンテンツになりました。今まではアウトドア派の一部の方が楽しんでいたコンテンツが、一般化したような印象を受けます。アウトドアショップを訪れるととても盛況ですし、地元・埼玉の自然を感じるためにキャンプに訪れる方や、キャンプ場自体も増えてきたのではないかと感じています。そういった一つのマイクロツーリズムによって築かれたニーズの展開など、このコロナ禍だからこそ出来たこともあったのだからと改めて思います。

松山さんがおっしゃったように「川越ならではのものを深掘りしていく」という点では、例えば、川越のナイトライフが楽しくなれば、食事を楽しんだ後は宿泊していかうという考えになるのではないでしょう。そして、せっかく宿泊したのだから翌日はただ帰るだけではなく、少し足を伸ばして他の地域を観光してみようという選択肢が生まれてくると思います。その時に県内の他の地域の方たちとコンシエルジュのように連携していくことができ



ロックバンドACIDMANと共同で開発したクラフトビール



かをしよとなつた時、それぞれの地域でやっている情報をみんながお互いに共有できるようなプラットフォーム作り、これが物産観光協会や県のDMOの役割になってくるのだと感じますね。

グリーンツーリズムにおける川越の可能性

松山 朝霧さんは現在大宮で有機農産物の販売もされていますが、これからはグリーンツーリズムの時代と言われていますが、それについてどのような可能性があると考えますか。

朝霧 そうですね、グリーンツーリズムと云って農業を体験したり食育的な意味で体験をするといったことは、例えば川越でしたら芋掘り観光が挙げられると思います。小さな子どもたちがサツマイモ掘りに訪れますが、常に実践の場としての価値はもちろん、農業や自然に触れるということがコンテンツの一部に埋め込まれた形の、イベントのようなことをプロデュースしていくことが肝要かと。グリーンツーリズムだけに関心がある方だけでなく、そこで出

会った人同士が何かを築いていくことで繋がりが発生してくると思えます。町の中のコンテンツや他の文化的な事業との連携を含めて企画を考えられると、川越のように人口の多いエリアの近くで緑に触れながら、本当にリアルな体験ができます。素晴らしいなと思っています。全農さんも埼玉のキャッチフレーズは「暮らしのとなりが産地です」というような言い方をされているので、そういう意味では農産地と居住地や観光地が一体化される良い面も含め、やはりまずは地元の人に地元のことを魅力的だなと思っていただきたい。そういうことを一つ一つ進めていくと、それらが自然に融合して、より良い生活になったり、観光的な目線でも楽しさが増すというようなことが起こり、提供する側も体験する側も良いバランスになる可能性を感じますね。

松山 以前、川越では関東広域DMOによる外国人のモニターツアーを開催したのですが、台湾や韓国、中国の留学生が参加して、川越を一通り回りました。そして最後に意見を

述べる機会を設けたんですが、「観光体験、観光農業として川越は芋掘りがあるのでどうですか?」という話をしたら、ツアーに参加されていた方から「収穫した芋を使ってその場でスイーツを作りたい」という意見をいただき、私たちが慣れ親しんだコンテンツにもまだまだプラスアルファの発想ができるんだと感じました。農業体験の他にも工場見学も観光になりうるかもしれないと言われている中で、松本さんは鶏や卵を扱われる上では工場見学などのコンテンツについてお考えがあるのでありますが、そういったプラスアルファの体験についてどうお考えですか。

松本 体験型と言うと少し見方が違うのかもしれませんが、芋を掘ってそれを他の場所へ持って行き、ジェラートなどに加工するという例を聞いたことがあります。そこでそれぞれの地域の持っている特性を活かし、お互いを知ることができていれば、芋掘りをしたらずぐ隣でおいしいスイーツとして食べられるという楽しみが、非常に至近距離で目的達成で

きる。このような体験の実現にはお互いのことをよく知るということが重要だと考えています。実は埼玉県は色々な体験の組み合わせができる可能性を秘めています。このことに地元の人が気づけば、非常に大きな埼玉県のファンの塊ができる。そこが目指すところなのかなと思いますね。

DMO活動について

松山 先程DMOの話をしていただきました。松本さんと朝霧さんは埼玉県の観光協会としてDMO活動に携わっていると思うのですが、具体的には県DMOとしてはどのような活動をされているのでしょうか。

松本 DMOとしての活動はまさに地域と地域を繋ぐという公益のハブ、あるいはプラットフォームといった役割だと思っています。それはこれからもずっと具体化するところではありませんが、外国からのインバウンドも含め、いろんな問い合わせは今後増えてくだろうと考えていますので、そういった方々からの問い合わせにも、その周辺も含めたスポット情報

や交通情報の一つのプラットフォームで分かるようにすることで、例えば日帰り観光が連泊になるような連鎖反応が起きるのではないかと考えています。そのためにはそれぞれの地域のDMOや観光協会が、本当に旬な情報をプラットフォームにアップしてくれないと全く意味がなくなってしまうので、なかなか一筋縄ではいかないと思うのはいるのですが、モデルケースのように「AとBがコラボしたら面白いことができ」る」というワクワクするようなコンテンツを作っていくと考えると、いいですね。

松山 ありがとうございます。朝霧さんはいかがでしょうか。

朝霧 DMOの自主財源というのがいつもトピックとして大事なところが出てくると思うのですが、やはりDMO自体がコンテンツそのものを作る存在ではなく、松本さんがおっしゃったように、プラットフォームを構築する機能であることが重要視されると思います。その中で県内各地域の面白い観光コンテンツなどがある程度DMOとして利益化しなけ

ればならないので、そこに観光ツアーや体験プログラム等の申込ができるサイトの構築などに取り組んでいることが繋がってくるのだという気がしますね。

これからの観光とは——新しい常識を切り開く

松山 コロナ禍を経て、さまざまなことが変化してきたこと、そして企業や皆さんの取り組みについて伺いましたが、非対面が推奨される中で、ITやDXが急速に普及しています。そういった取り組みについてはいかがですか。

松本 海外ではメタバースなどもかなり普及しているようですが、まだ日本では理解が及んでなかったり、実際に取り入れているところは少ないように思います。国内ではこれから発展していく分野ですね。

朝霧 コロナ禍で制限された中で、今またリアルが求められてきています。メタバースを含むデジタルのコンテンツでの観光は、補足的な、あるいは観光の前段階的な意味合いでは非常に価値がありますが、特に川

越のように現地の魅力に富む観光地は、やはり来ていただくことに意味があると思います。行ってみたい、と思ってもらってから実際の行動につながるものが大切ですね。

松山 私が料亭をやっている実感するのは、ドラマや映画のロケ地として採用されることで、思った以上にいわゆる「聖地巡礼」の方が多くいらっしゃるということなんです。テレビや映画のストーリー、出演している俳優のファンは、やっぱり本物の場所をみたい、体験したいという想いが強い。観光に繋がるといってももちろんありますが、実際にそのまちなきて文化や歴史に触れるというのは、デジタルではなしえない貴重な体験だと思っています。

本日はお二人に貴重なお話をいただき、ありがとうございます。



変革する観光業
観光者がそのまちと人と
密接に繋がり、
その土地を堪能できる仕組みとは？
Bed and Craft主催の山川智嗣さんに
伺いました。

に提供したいと考えたことが、
『Bed and Craft』とごう活動の始
まりでした」

2009年に中国の上海の設計
事務所勤務していたことが、山
川さんにとっての大きなターニン
グポイントだったそう。設計事務
所で日本人は一人という環境の中、
商業施設やオフィスの設計に携わ
っていたという山川さん。中国の
貧しい農村地帯から設計事務所を
設立し、上海で成功者となった中
国人の創業者が、出身地域の経済
循環を目標にワイナリーを作りコ
ンテナツを広げること、その地
域を訪れることへの価値を創出し
ているという活動を知り、自分自
身も出身である富山県で地域活性

に繋がる活動ができないか、と考
えました。

「今では、彼の出身地は中国国内
でも有名なワインのテーマパーク
のようになっていきます。彼が行っ
たこの試みによって、観光地とし
て多くの人も訪れるようになり、
それに伴って地元の人々の就労場所
も増えて、地域の経済循環に繋が
る。その光景を目にしたときに改
めて『自分が生まれた土地に恩返
しをする』としたり、自分の役割は
なんだろうか？』と考えました。」
2016年に帰国し、建築家と
して仕事をしてきた山川さんは、
新しい建物が造られていく一方で、
当時顕在化してきた日本の「空き
家問題」に大きな関心を寄せまし

職人技に触れ、感動を呼び起こす
心動かされる体験が、
まちの活性に繋がる

木彫の町で有名な富山県南砺市
の井波を拠点に『Bed and Craft』を
運営する建築家の山川智嗣さん。
『職人に弟子入りできる宿』をコ
ンセプトとし、井波の観光、宿泊
業に大きな変革をもたらしていま
す。減り続ける伝統工芸の従事者、
そして技術の継承断絶に対する危
惧。木彫の職人が多く生活する井
波だからこそ、訪れる人々にその
魅力をダイレクトに伝えたい――。
山川さんは、地域の仲間たちと共
に、「お抱え職人文化」を再興す
るビジョンを掲げて活動をしてい
ます。

「日本には、昔からそれぞれのま
ちに根付いた職人さんがいて、家
を建ててもらったり、職人が作る
日用品を買ったり、顔の見える関
係性が多く存在しました。例えば

『私の家はあそこの大工の棟梁に
建ててもらった』といった話を聞
いたことがありますか？』
時代が進むにつれて日本では量
販店がたくさんでき、そのような
まちと職人の関係性は少しずつ希
薄になってきました。特に地方で
職人たちを経済的に支えるという
文化は、成立しなくなってきたこ
とが現状だと、山川さんは考えて
います。

「地域で職人を支えられなくなっ
たことを悲観するのではなく、デ
ジタル技術等の現代の力も借りな
がら、ニユーヨークやパリ等の世
界中の人々が直接職人と繋がり合
う世界を叶える。それによって新
たな関係性をつくること、職人た
ちと手を組むことで、その土地な
らではの新しい体験を訪れる人々



築50年の元建具屋をリノベーションした宿「TATEGU-YA」

た。

「これからも空き家が増えていく
という統計が出ている一方で、そ
れでも私たちが新しい建物を作り
続けなければならないのは何故な
のか。日本の伝統的な工法によっ
て建てられた家々が残され、朽ち
ていく現状を目の当たりにし、故
郷の原風景としてこれらの古民家
をもっと利用することができない
かと考えました。」

富山県というと世界遺産の五箇
山が合掌造りで有名ですが、井波
というまちはあまり知られていま
せんでした。しかし井波は人口約
8000人の内2000人が木彫職
人という地域で、これだけの職人
が一つの地域に集中して住むこと
は世界的にも珍しいと言われてい
ます。木彫職人の中には寺社建築
の彫刻を手がけている方もいて、
例えば築地本願寺や日光東照宮に

地域のために、できること
自分に与えられた役割を知る





まちにいる職人の工房で体験ができる

は、井波彫刻による装飾が施されています。しかしそのような有名な寺社の建築に携わっても、工務店や建設会社を通して施工されるということもあり、井波彫刻の存在はあまり知られていません。観光者も少なく、まちの人口も減少傾向にありました」

しかし実際に井波を訪れた山川さんは、この地域の大きな可能性に気づくこととなります。

「富山県は一住宅あたりの延べ床

面積が全国一位で、一世帯あたりの住宅がとて広い。昔は大家族で住んで農業を営む家庭が一般的だったので、家が大きいのですね。

また、地域全体で建物を維持管理し、景観を守ろうという気質があり、状態がいい古民家が多いということもありました。利用できる余剰空間が多いという点で、このコロナ禍において住宅としての利活用、あるいは広いスペースを民泊やオフィスとして貸し出すという使い方ができるのではないかと、思いました。こういった古民家の使い方は都内ではなかなかできませんし、日本の伝統工法によって建てられた建築物を海外の人にも知ってもらいたいという思いから、井波に腰を据えて、この地域の情報を発信していこうと活動を始めました」

『日本一の彫刻の町』と言われるが、ほとんどの人が立ち寄るのみで長時間滞在しない井波にとって、山川さんが一番必要だと考えたのは宿泊施設でした。実際に



1.



2.



3.



4.

1. 明徳元年(1390)創建、井波の瑞泉寺の彫刻。井波の彫刻技術の継承はこの寺の再建に深く関わっている 2. 古民家ならではの落ち着いたベッドルーム 3. 外の石垣がまるでアートのように見える設計の宿 4. 井波の木彫で出た木屑を使って燻製料理を提供するレストラン「nomi」も運営

る木彫の職人さんたちの姿が頭に思い浮かびました。

そこから始まったのが、『Bed and Craft』という活動です。『職人に弟子入りできる宿』をコンセプトに、ものづくりを体験できる新しい旅のカタチを提案しています。あらゆるものに対して工業化や大量消費が当たり前の世の中だからこそ、一点一点手作りで作るという他にはない魅力を伝えるために、『職人活かす』、『古民家を活かす』そして『町を活かす』という思いで運営しています」

山川さんの運営する宿は、全て

古民家×職人×まちの魅力 観光客が「わざわざ」 訪れる理由とは

2016年から古民家を改装して宿を運営し始めると、徐々に観光客が訪れるように。それまで金沢市、富山市など近隣都市のホテルに宿泊していた観光客が、じつくり井波のまちを堪能できる仕組みを供給できるようにしました。井波の歴史や文化、まちの人々とのふれあいだけではなく、ちょっとした路地の風景や古民家の居心地は、観光客の心に井波でしか体験できない大きな感動を与えています。

「観光客が増え、地域が活性化していくと、全国から井波に移住して新しいお店を開こう、という人も増えてきます。こぢんまりとしたエリアに多種多様なコンテンツが存在し、一週間いても楽しい！と思われるような、そんなまちを

目指したいと考えていますが、実際には最寄駅から遠く、交通の便の悪さなど課題も多く残ります。では、遠くからわざわざいらっしゃる方たちに向けてどのような改善をしていけば良いのか、ということを考えて続けています。

その『わざわざ』とは何か、と改めて向かい会った時、山川さんの脳裏に今もこの町で生活してい



山川智嗣 yamakawa tomotsugu

富山県生まれ。明治大学理工学部建築学科卒業。カナダに留学後、2009年中国上海へ、MADA s.p.a.m. Shanghai に於いて馬清運氏に師事。2011年トモヤマカワデザインを設立。2017年には日本一の木彫刻のまち富山県南砺市井波にてコラレアルチザンジャパンを設立。日本初の職人に弟子入りできる宿「Bed and Craft」をプロデュースするなどクリエイティブディレクターとしても活躍している。グッドデザイン賞(岩佐十良審査員特別賞)、東京メトロ銀座線駅デザインコンペティション優秀賞等、受賞歴多数。



ことで、彼らの背景や井波のまちの魅力を知ってもらうということ、地域活性にとっても大変重要なことです。その土地を知り、本来の魅力を発信することが観光を通じたまちづくりに繋がっていくと考えています」

山川さんは川越にも訪れており、多くの人で賑わう一方で歴史深く魅力溢れる川越にも、多くの可能性を期待できると感じたそう。その地域が目指す未来を想像することが、これからの観光業へも大きな作用を果たしていくのではないのでしょうか。

Japan tourism

一棟貸し。それぞれの宿には、木彫をはじめとして、陶芸の作家や仏師など、様々なジャンルの職人が山川さんと共同で建物をプロデュースし、宿泊者は気に入った作品などがあればそれを注文したり購入したりすることもできます。また、宿泊費用の一部はプロデュースしている職人の収入へも繋がっている仕組みで運営されています。

「今、移住をして木彫の職人に本格的に弟子入りをしたい、という声を聞くことも増えてきました。井波を訪れ、ワークショップを通じて職人や作家と一緒に体験する

川越市内にある歴史的建造物や人物、スポットなどを取り上げる連載「川越を知る」今号では江戸の面影を残す、喜多院を紹介いたします。

喜多院



830年に創建された勅願所であり、当時は無量寿寺と名付けられていた喜多院。1638年1月に発生した川越大火により、現存する山門以外が焼失するも、徳川家光の命により復興された、徳川家にゆかりある寺院の歴史を紹介します。

江戸時代の 名残を感じる 川越屈指の名刹

徳川家光公誕生の間（国指定重要文化財）。柿葺（こけらぶき）で桁行8間、梁間5間の入母家造り。襖と壁面に墨絵の山水が、天井には81枚の花模様が描かれている



平安時代の高僧・慈覚大師円仁によって創建されたと伝わる喜多院は、本尊の阿弥陀如来をはじめ不動明王、毘沙門天等を祀り、当時は無量寿寺と名付けられていた。また、仙芳仙人の故事によると、奈良時代、湖水から祥雲が昇る様子を見た毘婆尸仏が、説法をした遺跡であると感得し、湖の神竜の助けを得て寺を建立したと言われている。

現在の山号で呼ばれるようになったのは1301年のことで、後二条天皇より関東天台宗の本山となるべき諭旨が下され、以後関東580余ヶ寺の本山となった。

喜多院はこれまで、元久年間の戦火や、戦国時代に入った際、1537年の上杉氏と北条氏による争いの戦火に巻き込まれ、堂宇を焼失している。特に上杉氏と北条氏の戦後は長期に渡り再建は叶わず、1599年、天海僧正（慈眼大師）が第27世の法灯（最高位の僧）を継いで住職となった際に、復興されたといわれている。また、再建の際に仏藏院北院を喜多院と改め、徳川家4代將軍・家綱公の時代には東照宮に200石を下すなど寺勢をふるった。

なお、天海僧正は1611年11月、徳川家康が川越を訪れた際に接見したといわれており、家康より大きな信頼を得た天海僧正は、以後、秀忠、家光と將軍家に仕えることとなった。1638年になると川越は大火に見舞われ、街の3分の1を焼失する。喜多院も例外ではなく、現存する山門以外、堂宇はすべて焼失した。しかしこの時、徳川家3代將軍・家光の命により迅速な復興が始まり、戸城紅葉山（現在の皇居）の別殿を移築し、客殿、書院、庫裏が再建された。現在、喜多院に「徳川家光公



左：喜多院山門 右：喜多院鐘樓門（撮影年不明／川越市立博物館）

新入会員紹介

COEDO KAWAGOE F.C



川越市元町2-1-6 蔵の街てらす2F
※試合日程など詳細はHPをご覧ください
<https://c-kawagoe.com/> (HP)
<https://shop.c-kawagoe.com/>
(ECサイト)

川越市をホームにJリーグ参入を目指して2020年9月に発足したフットボールクラブ。2023年シーズンの埼玉県3部昇格に向け闘っています。現在、170社以上のスポンサーがチーム

を後押し。「サッカーを通じて、川越の人々にとって人生の豊かさや活力の創出につながる存在になりたい」と代表の有田和生さん。スポーツ分野から川越を盛り上げるため、精進して参ります！

QUON チョコレート小江戸川越店

クオン



川越市連雀町9-1
049-272-7875
営業時間:10:30~18:30
定休日:火曜
<https://quon-choco.com/>

全国43店舗を展開するチョコレート専門店「クオン」の玉川1号店が川越に！チョコレート本来の味を楽しんで欲しいという思いから、余計な油を一切加えないピュアチョコレートにこだわりを持って

います。おすすめは、QUONチョコレートの代名詞と言える「クオンテリヌ」。世界各国から厳選したカカオと地域の食材をマリアージュしたチョコレートは、ご褒美にもお土産にもぴったり！

小江戸の洋食 コエド ボナペティ



川越市石原町1-18-3
049-236-3111
営業時間:ランチ10:30~15:30(L. 015:00)
カフェタイム14:30~17:00
定休日:水曜
<https://akr9230861222.owst.jp/>

2021年に菓子屋横丁近くにオープンした洋食店。お肉や野菜などの食材は、できるだけ地元産を使用する地産地消にこだわっています。「川越に根付き、誰もが気軽に立ち寄れる空間を作っ

ていきたい」と店長の梶山厚平さん。人気メニューは、4種類のソースから選べるハンバーグ。明治時代の古民家でいただく、本格派の洋食をぜひご賞味ください。

ルミネ川越



川越市脇田本町39-19
049-240-6220(代表)
営業時間:10:00~21:00
(平日・土日祝、ショップにより異なる)
定休日:元旦休業他
※詳細はHPをご確認下さい
<https://www.lumine.ne.jp/kawagoe/>

JR川越駅改札前のルミネ川越は、ルミネの中でも施設が4階建てとコンパクトでアットホームな雰囲気の特徴。川越店のマネージャーは「地域の情報発信の場として、ぜひルミネを活用してい

たきたい」と地域密着の姿勢を大切にしています。施設内の各ショップでは、川越に特化したコーナーやスタッフおすすめの商品紹介など、さまざまな視点から川越の魅力を伝えていきます。



川越北田島の「志誠(しじょう)」の発願により、1782年から1825年に渡り建立された五百羅漢。仏具や日用品を持っていたり、動物を従えていたり、羅漢様の表情も豊か。

喜多院で過ごす
小江戸川越の春夏秋冬
その絶景は一見の価値あり



誕生間」や、家光公の乳母であった「春日局化粧の間」があるのはそのためで、家光公が生まれ育った当時の様子を垣間見ることができると。また、毎年正月3日に開催される厄除元三大師縁日「初大師だるま市」では参拝者で大いに賑わうほか、春に咲く桜、秋に境内を彩る紅葉など、四季折々の美しい風景を觀賞するために多くの人々が訪れ、川越市

民をはじめ、県内外から訪れる観光客からも親しまれている。そのほか、境内では日本三大羅漢の一つに数えられている五百羅漢を見ることができ、喜怒哀楽などさまざまな表情をしている、全う38体の鎮座する羅漢像は、小江戸川越の観光名所として人気を博している。

秩父×川越×さいたま 3市周遊スタンプラリー

2023年1月1日(日)～2月28日(火)

埼玉県を楽しもう!

スマートフォンを使った非接触型スタンプラリーが開催されています。

スポットを訪れてスタンプを押すだけ!
集めたスタンプの数に応じて、抽選で豪華賞品が当たります。

主催 一般社団法人秩父観光協会 公益社団法人小江戸川越観光協会 公益社団法人さいたま観光国際協会

共催 秩父市 川越市 さいたま市

後援 埼玉県 一般社団法人埼玉県物産観光協会 一般社団法人秩父地域おもてなし観光公社 川越商工会議所 小江戸川越観光推進協議会 NHKさいたま放送局 テレビ埼玉新聞社 J R東日本大宮支社 西武鉄道株式会社 東武鉄道株式会社 秩父鉄道株式会社 株式会社矢尾本店 株式会社ちちぶ観光機構 秩父礼所連合会



スタンプラリーの参加はこちらから!



※参加にはインターネットに繋がったスマートフォンが必要です。サポートしているブラウザ・OSはチラシでご確認ください。

小江戸川越春まつり

日時 令和5年3月25日(土) 10:00～16:00

会場 蓮馨寺や一番街、仲町交差点周辺、大正浪漫夢通り他(交通規制あり)

内容 鉄砲隊演武・鷹組合はしご乗り・消防音楽隊など

小江戸川越春の舟遊

日時 令和5年3月26日(日) 11:00-15:00

会場 川越氷川神社裏の新河岸川河畔

※料金等、詳細は後日HPに掲載します。

詳細は3月頃、小江戸川越観光協会のHP、掲示などをご確認ください。

小江戸川越 おもてなし

令和5年1月30日 発行



発行 公益社団法人 小江戸川越観光協会
〒350-0056 埼玉県川越市松江町2-1-8

TEL 049-227-9496

印刷 株式会社 櫻井印刷所

本誌は著作権法の保護を受けています。
内容を無断で転写、複製、転載することは禁じられています。

撮影 大木賢 斎藤美春 中村香奈子 川越市

デザイン 熊谷昭典(SPAIS)

執筆 芦田怜 草野明日香

編集 櫻井理恵

《編集後記》

市制施行百周年を迎えた令和四年の春。糸原恒久会長に代わり当観光協会会長に選出された松山潤氏は、就任挨拶の壇上から語りました。「観光都市として、百年後も色あせないまちを目指したい。」

この言葉には、まちの歴史と伝統を何よりも大切にしたいうえで、そこに新たな魅力を注ぎ続けていくのだ、という熱い決意が滲みます。

今号ではそうした新会長の想いを、県物産観光協会松本邦義会長・朝霧重治副会長との鼎談を通じ具体的にお伝えしたいと考えました。ご多忙の中ご協力いただいたご両氏と埼玉県物産観光協会様に心より御礼申し上げます。

奇しくも、これまで長年に亘り当協会を力強く率いてこられた糸原前会長のお名前が「恒久」。松山新会長は「潤」。まさに、丁寧に積み重ねられた永やかな歴史が、適度な潤いを保ちながらつねに瑞々しい、百年先の川越が目に見えるようです。

小江戸川越観光協会 副会長(広報担当) 山田禎久